

www.koden-electronics.co.jp

情報化施工のパイオニア、コーデン。超音波技術が、工事の高品質化・工期の短縮・工費の削減を実現！

概要・機能

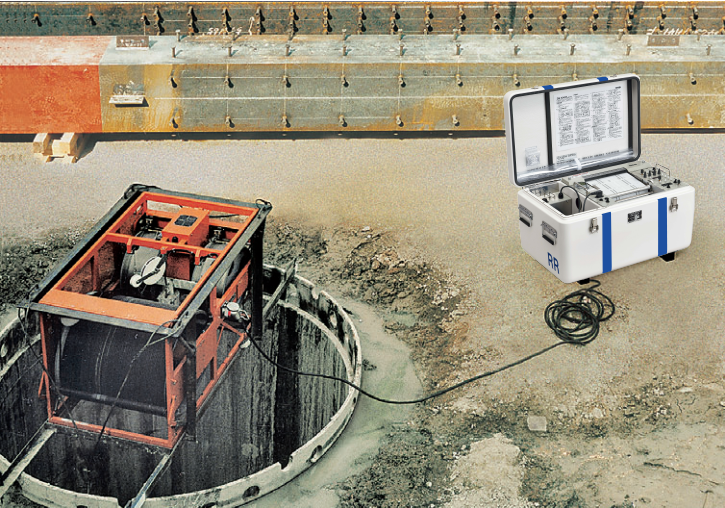
近年、基礎工事の発展にともない、掘削工法も大きく進歩しました。さらに、高濃度、高比重の安定液が使用されるようになって、大深度の掘削も可能となりました。DM-602RR/604RRは、このような新たな使用環境の変化のもとでも常に安定してパイル孔壁面の状態を測定できるように設計された、最大深度100mの測定が可能な側壁測定装置です。

DM-602RR/604RRは

- 工事の高品質化・工期の短縮・工費の削減に寄与します。
- 掘削したパイル孔の鉛直性や断面形状を、正確に測定・表示・記録します。
- 記録データを電子ファイルに格納し、半永久的な保存を可能とします。

特長

- 従来困難とされてきた高濃度、高比重の泥水や安定液の中でも、鮮明な記録が得られます。
- 壁面エコーとノイズを自動識別する信号処理回路を採用。常に適正な安定した記録が得られます。
- 小口径パイル孔の測定時に障害となっていた発振線エコーの除去回路を、新たに採用しました。この結果、スイッチを投入するだけで発振線エコーを除去することが可能となりました。
- ウインチに吊り下げられたセンサーは、着底位置と格納位置で自動的に停止します。また非常時には、非常巻き上げ機能を使用してセンサーを巻き上げることができます。
- 深度レンジマーク、深度マーク、孔壁径マーク、日付、時刻等の情報を記録紙上に表示することが可能です。測定後の記録の審査、検討を行なう際に便利な機能です。
- ワイヤの断線防止やワイヤとケーブルの絡まり防止対策として、格納用と着底用にそれぞれリミットスイッチを設けました。
- 測定したデータは、記録機に設けたRS-232Cポートからパソコンに出力することが可能です。
- サーキットブレーカーの採用により、面倒なヒューズ交換は不要となりました。



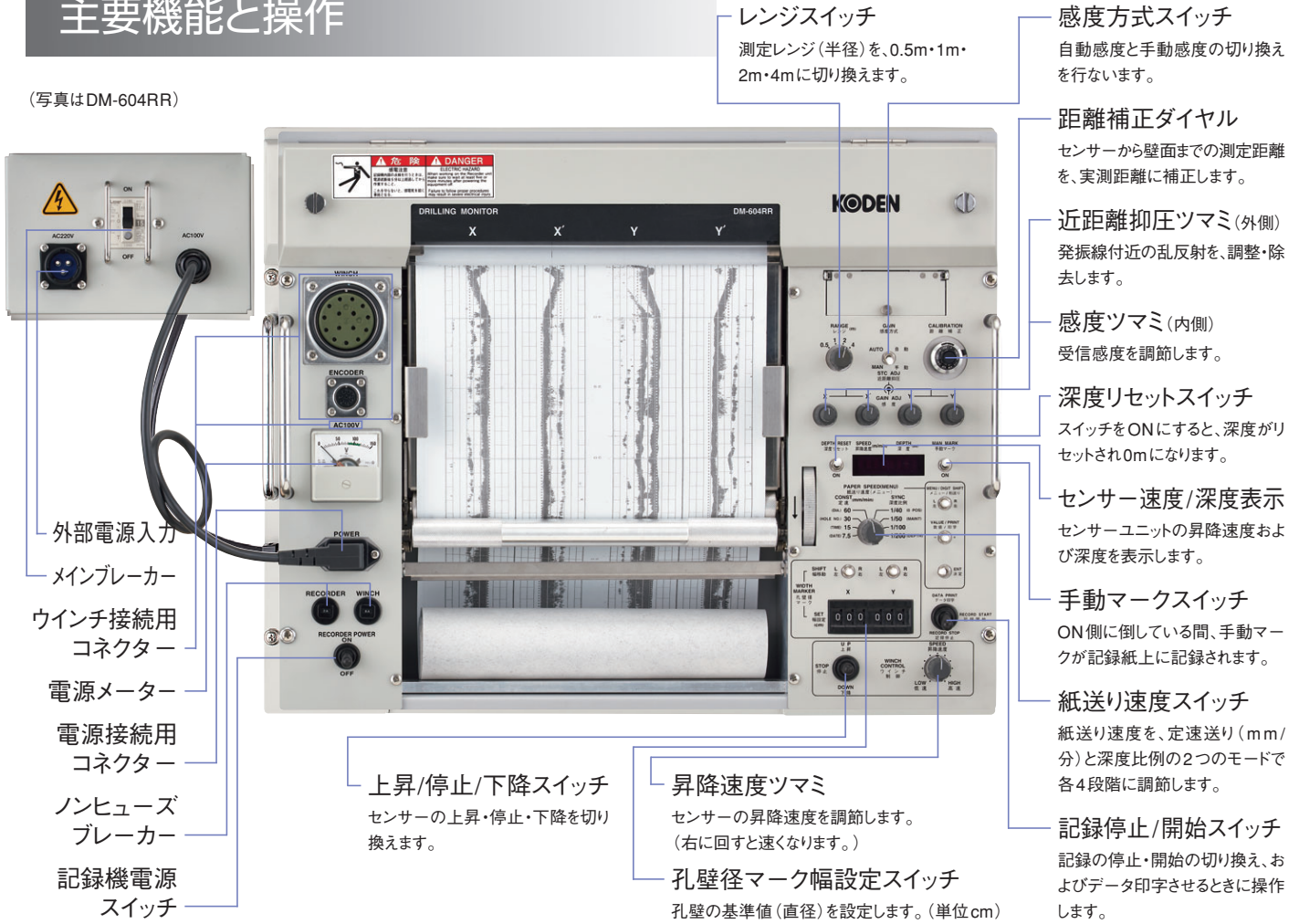
掘削孔の上にセットされたウインチ (左)
ケーブル接続された記録機 (右)



DM-602RR / 604RRが現場で利用される様子

主要機能と操作

(写真はDM-604RR)



記録例

